

活動実績報告書

平成28年12月12日

登録番号 20160919

氏名 福山 拓也

1. 活動状況

平成27年10月 ~ 継続取組中

・ 活動の概要

平成27年10月から、市町村に対する技術的支援等(市町村森林整備計画の作成・達成)及びケーススタディ地区(事例研究地域)の設定の説明、地元への協力依頼及び市町村森林整備計画に対する支援について説明し、平成29年度を目途に支援チームの設立を目指している。

なお、沖縄県とは平成24年度より2~3ヶ月毎に月例調整会議を実施し、業務等の情報共有・意見交換を実施している。

・ 当該活動を挙げた理由

沖縄県においては、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地」としての取組が行われており、世界自然遺産候補地となれば保護・保全が優先され、森林資源の活用は後回しにされがちである。自然環境の保全・保護、フィールド利用、森林資源の活用がバランス良く行われことが地域の活性化につながり、その実現のためには支援チーム作りは必要不可欠であり重要な取り組みであると考えている。

・ 当該活動における、あなたの立場と役割

当該業務の関係機関への説明等をはじめ、県との月例調整会議や各種会議(奄美・琉球世界自然遺産候補地地域連絡会議、やんばる型森林ツーリズム推進構築事業等)に参画し、沖縄県における適正な森林管理と持続的な林業経営を構築するために、各関係者と目的意識を共有しつつ、支援チームの早期実現に向け取り組みを継続している。

・ 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

ケーススタディ地区設定予定の国頭村の沖縄北部国有林は平成28年9月に「やんばる国立公園」に指定されたことに併せ「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地」であることから、自然環境に配慮した森林施業(赤土流失の防止等)及び自然環境に調和した新たな森林利用が出来る箇所であることが第一条件であり、それをクリアするための条件が厳しい状況である。

一方、沖縄県においては、高性能林業機械の普及が遅れており、現状においてデータの収集作業のため、複数の事業実施現場の確保が困難な状況である。

・ 活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

沖縄県においては、持続可能な森林・林産業と自然環境に調和した森林の利活用の両立を図り、自然環境への負荷の少ない森林施業の構築が必要不可欠だと考える。そのためにも、関係行政機関だけでなく森林・林業に係る関係者等とも連携を取りながら早期の支援チームづくりを進めていく。具体的には、各種会議(民・国の予算制度の勉強会等)及び現地検討会等を実施し、フォレスター活動の定着を図っていく。

注1: 1. 活動状況については、直近の過去5年間に、森林総合監理士としての活動に関連していると考えられる、又は森林総合監理士として取り組んだ具体的な活動内容を記載してください。

2. 研修の受講状況

研修名 技術者育成研修 中央研修 平成27年7月
(実施主体) 林野庁

研修名 技術者育成研修 九州ブロック研修 平成27年9月
(実施主体) 林野庁 九州森林管理局

研修名 技術者育成研修 実践研修 平成27年10月
(実施主体) 林野庁 九州森林管理局

研修名 森林総合監理士フォローアップ研修(目標林型と森林施業) 平成28年8月
(実施主体) 林野庁

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

(記載事項例)

・ 森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動に関連する各種研修への参加

◎平成 27・28 年度 フォレスター等活動推進会議参加

注2: 2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3: 活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4: この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。